連携先世界遺産：　音羽山清水寺
京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み

（本科目が取り組んだ課題・改善事項等の概要）

座学・フィールドワークを通して、文化財の価値の重要性を学び、守るために、地域の災害危険性について考え、具体的な検討を行う。

■受講生

坂井　頼太（立命館大学理工学部）、中谷　壮志（立命館大学理工学部）、政木　颯太（立命館大学工学部）、増田　菜穂（立命館大学法学部）、加浪　麻里菜（立命館大学経済学部）、上嶋　彩夏（立命館大学経済学部）、田中　美優（立命館大学経済学部）、藤井　優佳（立命館大学経済学部）、伊藤　美雨（立命館大学経営学部）、桐山　みのり（立命館大学経営学部）、楠井　愛（立命館大学経営学部）、原田　夏希（立命館大学経営学部）、中田　倫人（立命館大学産業社会学部）、平田　礼（立命館大学産業社会学部）、宮崎　航佳（立命館大学文学部）、朝倉　万優（立命館大学文学部）、安野幹人（立命館大学文学部）、山本　恵太（立命館大学政策科学部）、大橋　弘明（立命館大学情報理工学部）、小井田　一真（立命館大学スポーツ健康科学部）

■担当教員

大窪　健之（立命館大学・理工学部・教授）
TA　河田　直哉（立命館大学大学院・理工学研究科・修士1回生）

活動目的・概要

世界文化遺産である清水寺は、年間600万人を超える参拝者があり、日本を代表する寺院の1つです。本プログラムでは、この貴重な文化遺産を守るために取り組まれている活動や設備を座学とフィールドワークを通じて学びます。清水寺では文化財等を維持管理し、火災等の災害から守ることを主な目的として「清水寺警備団」が結成され、現在に至っています。また、地震による大火から守るために、京都市が平成18年度から国宝や重要文化財が集積する東山区清水・弥栄地域において、地域力を最大限に発揮して防災力を強化する「文化財と地域を守る防災水利整備事業」を展開しています。フィールドワークでは、清水寺の文化財の価値について僧侶から説明を受け、実際に見学を行い、境内と周辺地域の災害リスクに関するグループ調査を行います。最後に「災害図上訓練DIG」を行い、文化遺産を核とした地域の災害脆弱性と対策について幅広い観点から考察し、グループごとに発表します。

フィールドワーク

災害図上訓練

成果発表

◆主な活動

春学期　インタビュー・プレゼンテーショントレーニング（オンデマンド）
2025/9/5(金)　清水寺 ご挨拶＋受講生自己紹介
2025/9/5(金)　文化遺産と歴史都市を災害から守るために
（講義ガイダンス＋歴防研究所の活動紹介）
2025/9/5(金)　清水寺とその災害について1
（災害史を古文書から読み解く）
2025/9/5(土)　清水寺境内の見学および設備の実技体験
（防火水槽、ドレンチャー、放水銃等）
2025/9/6(土)　フィールドワーク1＊各地において事業の説明
（市民利用消火栓、高台寺防災公園、etc）
2025/9/6(土)　清水寺とその災害について2
（近年の災害と対策：地震・土砂・火災）
2025/9/6(土)　清水寺周辺地域の防災水利整備事業の概説
および（翌日の）災害図上訓練の概要
2025/9/7(日)　文化遺産の保存と管理について
2025/9/7(日)　フィールドワーク2＊グループ毎に現地調査
（地域の災害危険性、防災資源、etc）
2025/9/7(日)　災害図上訓練1（実技・地震火災WS実施）
2025/9/7(日)　災害図上訓練2（実技・その他の災害WS実施）
2025/9/8(月)　成果発表準備（班ごとにPPT作成）
2025/9/8(月)　災害図上訓練3（成果発表＋総括・講評）
2025/9/8(月)　全体報告会準備（全体で1つのPPT原案作成）
内容について各班の主要なアイディアを集約
2025/10/22(火)　成果報告準備①
2025/10/26(日)　成果報告準備②
2025/11/27(木)　成果報告準備③
2025/12/7(日)　成果報告会

活動の成果

本講義の中で、受講生が着目した「清水地域における防災上の課題」

本講義の座学・フィールドワークを通じて、各班から多くの問題点【表1】が挙げられました。その中でも特に「初期消火」と「避難誘導」を全ての班が懸念しており、重大な問題であることが認識されました。そして、こうした問題を念頭に災害図上訓練（DIG）を行った結果、初期消火・円滑な避難の両方を実現させるために、どのような課題点があるのかを各班ごとに考えることができたのではないかと考えています。このように、文化財や地域を守るために、受講生自身が地域の災害危険性について調査・考察を行うことで、文化遺産を守りつつも、次世代へと伝えることの実情と難しさをより学ぶことができたのではないかと思います。

― 座学・フィールドワークから認識された本地域における防災上の課題 ―　【表1】

A班
初期消火：消火器の設置場所
避難誘導：外国人観光客の増加、避難場所の不足

B班
避難：消火栓の場所や使い方、障害物
避難誘導：避難経路の周知、パニック状態での誘導

C班
初期消火：火災による建物の倒壊リスク
避難誘導：道幅、言語による問題、混雑による転倒

D班
初期消火：防災意識の差
避難誘導：観光客に対する避難所の収容人数

▲フィールドワークの様子

本講義の中で、受講生が考えた「防災上の課題における提案」

本地域における防災上の課題【表1】に対して、本講義のフィールドワーク・災害図上訓練を通して、各班から【表2】の様な多くの提案アイデアが挙げられました。

― フィールドワーク・災害図上訓練から認識された本地域の防災上の課題における対策 ―　【表2】

A班
人力車や着物を使用した担架の作成による、負傷者救助の提案。避難ルートや避難場所の選定。

B班
ドローンの使用による初期消火の充実。ドローンでの避難経路の誘導。地面に埋め込んだ誘導灯による誘導。小型車両を用いた迅速な救助活動。

C班
無人ドローンによる上空からの被害状況確認。提灯を使った避難誘導灯の設置。スピーカー設置により声による誘導。

D班
駐車場を避難所として活用。非常時や通常時オーバーツーリズム問題に対応するため、清水寺付近の人数を日常的にコントロール。

これらの事から、幅広い視点から現状を把握し、災害対策のあり方についての具体的な検討を行うことができる能力が身に付いたと考えられ、本講義の目的を果たしたものと思われます。

活動を振り返って

●四日間の講義を通して、これまで観光地としての魅力や美しさばかりに目を向けていた場所を、「災害」という新たな視点から見つめ直す機会を得ました。これまで何度も訪れたことのある場所でも、災害リスクに目を向けると、地形や建物の構造、観光客の多さなど、危険につながる要素が数多く存在することに気づきました。観光の際には楽しさや癒しを求める一方で、災害時にどう行動するかという意識が欠けていた自分に気づかされ、観光と防災の両立の大切さを実感しました。

▲防火水槽の見学

●この講義を通して、自分自身の行動にも変化を起こしていく必要があると感じました。これまで旅行先のホテルでは、部屋に入っても避難経路や非常口の場所を確認することはほとんどありませんでしたが、今後は入室時に必ずチェックする習慣を身につけたいと思いました。また、観光地で地図や案内板を見る際にも、観光スポットの位置だけでなく、緊急時の避難場所や避難ルートにも目を向けるよう意識していきたいと考えています。日常の中で少しの意識を変えるだけでも、いざという時の行動力につながることを学びました。

▲消火ポンプ室

●清水寺の見学では、普段一般には公開されていない防災設備を実際に見ることができ、とても印象的でした。放水銃などの設備を間近で見学し、その規模や設置の工夫に、文化財を守るための高い防災意識を感じました。清水寺のように長い歴史を持つ建造物が、伝統的な価値を保ちながら現代の技術を活用して防災対策を行っている姿は非常に興味深く、文化を守ることと防災を両立させる難しさと重要性を改めて実感しました。

●フィールドワークや災害図上訓練を通して、防災の難しさや現場での課題をより具体的に理解することができました。実際に現地を見学するだけでは気づけなかった問題点を、図上でシミュレーションすることにより発見できたのは大きな学びでした。特に清水寺の火災対策については十分に整っていると思っていたものの、想定外の状況では対応が難しい場面があることに気づきました。防災設備はあくまで「備え」であり、100%の安全を保証するものではないという現実を知り、課題を一つずつ改善していく継続的な努力こそが地域の防災力を高めるのだと理解しました。

担当教員からのコメント

大窪　健之

この演習は、2025年度で夏季集中講義としては12年目を迎え、世界遺産PBL科目に正式に加えていただいてからは9回目を数えております。これもひとえに所有者である清水寺様の多大なるご支援と、事務局やTAの皆様の不断のご尽力、何よりも今回を含めた歴代の履修生の真摯な取り組み成果が継続の力となっており、あらためて感謝を申し上げたいと存じます。

夏季集中講義の最終日には、各班からの成果発表に対して所有者様からコメントいただき、その後に全ての提案内容を整理して、12月の合同発表会へ向けた集約の議論を進めてまいりました。このまとめの作業は、正規の集中講義としては期間外の活動となり、各班の代表者らのボランティア活動に支えられています。受講者の皆さんはもとより、その後も主体的に成果発表準備に取り組んでいただいた各班の代表者とＴＡの頑張りに、あらためて敬意を表したいと思います。

今後も引き続き、大切な文化遺産とその周辺地域の災害安全に向けて受講者の皆さんと柔軟なアイディアを持ち寄り、地域貢献に繋げていければと考えています。

活動資料

▲集合写真

▲境内見学

▲消火設備の実演

▲座学の様子

▲清水寺の見学

▲フィールドワーク

▲災害図上訓練の様子

▲発表資料作成の様子